

感染性胃腸炎に注意しましょう

先日、感染性胃腸炎の集団発生が、伊万里保健福祉事務所管内の保育施設で確認されました。これから、ノロウイルス等を含む感染性胃腸炎の発生が増加する時期です。手洗いの徹底や食材等の十分な加熱を心がけ、予防に努めましょう。

園生活の中での急な嘔吐や下痢には、感染性の可能性があるため、感染症の消毒等対応をしております。診断前の嘔吐や下痢で感染が広がるケースが多いからです。

つきましては、以下の点でご理解ご協力よろしくお願いいたします。

- ① 嘔吐や下痢の症状がある場合は、必ず受診して、医師の診断を受けてからの登園をお願いします。
- ② 感染性（ウイルス性）胃腸炎の登園のめやすは「嘔吐・下痢の症状が治まり、普段の食事がとれること（保育所における感染症対策ガイドライン）」となっています。
- ③ 感染性胃腸炎は嘔吐や下痢の症状が出るため、特に高齢者や子どもは、脱水などを起こし、重症化することがありますので御注意ください。
- ④

子どもさんの体調を観察し、嘔吐や下痢の症状はもちろん、いつもと様子が違うなどの様子にも注意しましょう。子どもは大人と違い、症状や体のきつさをうまく表現できません。保護者の方と園で連携して子どもたちが元気に過ごせるようにサポートしていきましょう。

以下は県の感染症情報センターから出ているもの（10.12 付）です。

【 感染性胃腸炎に注意しましょう！ 】

感染性胃腸炎は、特定の原因に基づくものではなく、多種多様な病原体（細菌、ウイルス、原虫など）によって引き起こされます。冬季に集中して発生がみられるものの多くは、ノロウイルスやロタウイルス等が原因と考えられます。

感染性胃腸炎の主な原因ウイルスであるノロウイルスの予防方法等を紹介します。

■症 状

- (1) ノロウイルスに感染もしくはノロウイルスを含んだ食品を摂取すると、1～2 日後に 吐き気、おう吐、下痢、腹痛、発熱などの症状が見られます。
- (2) 3 日間程度で回復しますが、高齢者や乳幼児では脱水症状などから症状が重くなる場合がありますので、特に注意が必要です。
- (3) ウイルスの排泄は、数週間続く場合があります。

■主な感染経路

- (1) 汚染された貝類（二枚貝など）を生あるいは十分に加熱せず食べることで感染します。
- (2) 感染した食品取扱者を介して、食品が汚染され、その食品を食べた人が感染します。
- (3) おう吐物や糞便で汚染された人の手などを介して、人から人へ感染します。

■感染防止のポイント（基本的にはロタウイルスも同様です。）《県民の皆様方へ》

- (1) 手洗いは予防の基本です。（調理前、トイレの後など石鹸で十分な手洗いをしましょう。）
- (2) 下痢・おう吐のある患者に接する注意点 ・石鹸でこまめに手を洗いましょう。（特に用便後）
 - ・患者がおう吐した部屋には、立ち入る人を最小限にし、窓があれば換気をしてください。
 - ・おう吐物、糞便等を処理する際は、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用のうえ処理しましょう。
 - ・汚物の付着した床などは、汚物を十分に取ってから、次亜塩素酸ナトリウム溶液で消毒しましょう。
- (3) 二枚貝については、なるべく生食を避け、加熱して食べましょう。
- (4) 食品を加熱する際は、食品の中心部まで十分に加熱調理しましょう。